

# 芦安中学校（前期）自己評価書

平成25年8月30日  
南アルプス市立芦安中学校  
校長 中込 幸二

## 1 前期自己評価の経過

- (1) 前期教職員対象アンケート及び生徒対象アンケートの実施（7月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（8月22日）

## 2 学校評価の分析と改善方策

### (1) 教育目標

〔達成状況〕

○学校教育目標から出発した教育活動の展開，意識化については概ね良好な状況にあり，学校教育目標具現化に向け，学校経営方針を理解し教育活動を行っている。

〔改善策〕

○今後とも学校教育目標を全教職員が意識し，その目標の達成に向けて，日々のすべての教育活動の中で組織的・継続的に取り組んでいく。

### (2) 学校運営

〔達成状況〕

○「校務分掌」については，本年度も少ない職員数の中で，どの職員も多くの仕事を抱えている。そこで，主担当だけががんばるのではなく，できるだけ多くの職員が取り組みに関わり，仕事を分担していくようしてきた。そうすることで，学校全体で取り組むという意識が図られてきている。

○校内研究については，3つの柱（コミュニケーションづくりの推進，英会話科，食育）を中心に取り組んでいる。コミュニケーションづくりの推進では，合同朝の会や絆の集いを通して，他者とコミュニケーションをとる楽しさを知る機会を増やしてきた。英会話科では，事前・事後の検討会を開き，全職員が関わりを持って取り組むことができた。

○「報告・連絡・相談」の状況は良好で，開かれた風通しの良い職場となっている。

〔改善策〕

・学校現場の職務内容を考えると分掌を平均化することは難しいが，学年体制で補える部分，職員全体でバックアップできる内容等，状況に応じて複数職員で対応できるような協働体制をさらに強めていかなければならない。

○2学期は，英会話科とともに，食育公開も行う。生徒の実態を踏まえながら，それらの取り組みを通してコミュニケーション能力の育成を図っていきたい。

○職員室が授業や生活における生徒の情報や指導方針を共有できる場として，今後も機能させていきたい。

### **(3) 学習指導**

〔達成状況〕

- 「個に配慮した授業」について教職員の意識が高いが、「学び合う授業」については、C評価が多い。
- 授業に真面目に取り組もうとする生徒が多いが、学習内容の定着に時間がかかる子もいる。
- 英会話科については、生徒によっては、表現することを恥ずかしがる子もいるが、全体的に楽しく授業が行われている。

〔改善策〕

- 学力向上は一朝一夕に成果が現れるものではない。全国や県の学力調査の結果等を分析し、本校の課題を把握する中で、教師一人ひとりが授業改善を進めていく。
- 基礎学力の定着を図るために、まなびの時・放課後の補習の充実や保護者と連携し家庭学習の習慣化を図っていく。
- 人を思いやる心、正しい判断力等の道徳実践力を育てるために、道徳の時間を要として学校教育全体で指導を行っていく。

### **(4) 生徒指導**

〔達成状況〕

- 学校生活について、教師アンケートも含め「明るく楽しい」と感じている生徒や「仲のよい友だちが複数いる」という生徒の割合が多く、比較的安定した学校生活を過ごしている。教師との関係も良好な生徒が多い。しかし、「困った時に相談できる友だち」「困った時に相談できる先生」がいない子も1名いる。
- 学校生活への不安を抱えている子もいるが、全体的に教師の指示もよく聞き、素直な生徒が多い。
- 1年生が多いことから、「言葉づかい」「職員室へ入り方」「服装」等、基本的な学校生活における規律について教職員で確認し合い、指導にあたった。

〔改善策〕

- 普段から生徒の話を聞く姿勢を持ち、信頼関係を深めるとともに、生徒の情報収集のアンテナを高くしておく。生徒の情報交換と指導方針を共有し合い、全職員で同じ歩調で対応していく。
- 適切でない言葉が発せられたときは、その都度言い直しをさせる。また、お互いを認め合い、相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導していく。

### **(5) 学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）**

〔達成状況〕

- 鳳凰三山全校登山では、地域の支援者の協力の下、生徒たちは苦楽を共にする活動の中で仲間意識を強め、達成感を得ることができた。本年度は、登山学習の中で地域のフィールドワークを行い、地域の良さを知り、地域を愛する心情の育成も図った。
- バトミントン男子シングルスで県の代表として関東大会に出場できたことは、後輩にとっては大きな励みとなり、目標となった。しかし、新入生が増えたこともあり、部活動に対する意識や練習への取り組みの差が大きい。同じように、夜叉神太鼓も意欲や技術面での個人差が大きい。

○生徒会活動，委員会活動は，担当生徒がみんなの前で説明したり，提案したりする機会が多くなり，主体的に取り組む意識を持たせるようにしてきた。

〔改善策〕

○登山については，「登らされている登山」でなく，主体的に登山に臨めるように，生徒の実態にあったテーマ設定を行い，思いを持ち帰って来られるような取り組みを今後も考えていく。本年度も白峰祭の中で，その感動を伝えられる発表に取り組ませていきたい。

○学校生活の中でも大きな比重を占める部活動の指導では，子どもたちの意欲を向上させ主体的な練習を喚起していきたい。

○学校生活の中で，生徒の「主体性・自律性」は課題となっている。学習や諸活動の中で，生徒が選択し決定する場面をできるだけ取り入れていき，認める・褒める活動を意識的に行っていき，自己肯定感が持てるようにしたい。また，一人ひとりの生徒の実態に応じた指導や支援をしていきたい。

## 〔6〕家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕

○地域の人材の有効活用や地域行事への積極的な関わりは評価が高い。これは，全校登山に向けての事前学習や登山支援で，地域の支援者に有意義な指導をしていただいたことや新緑やまぶき祭への参加が評価された結果となっている。

○宿題や家庭学習の取り組みは，まだ十分とは言えない。

○小中連携については，毎月の小中連絡会や2回の連携会議を行い，それぞれの現状や課題を話し合い，9年間で子どもたちを育てるという意識を高めてきた。本年度は，さらに英会話科推進会議や文化発表会&音楽会の話し合いや具体的な活動の場が増えている。(合同朝の会，読み聞かせ，合唱，イングリッシュゲーム等)

〔改善策〕

○家庭における学習習慣を確立することは，生徒の学力向上に必要不可欠である。家庭と連携して粘り強く取り組んでいきたい。

○今後も英会話科の取り組みを中心に具体的な場面での小中連携の活動を行っていく。また，教職員が日常的に柔らかな交流を進めていくことによって，小中間の学校文化や意識の溝を埋めていくことをめざしていきたい。

## 〔7〕その他

○それぞれの活動には目標がある。やらないよりやった方がよいという発想でなく，それぞれの活動は何のためにやるのかを明確にして，計画的に取り組んでいくようにしていく。

○生徒数・職員数が少ない中で，多くの活動を行わなければならないので，一人ひとりの負担も大きい。また，生徒の自主性や創意工夫を発揮させるための十分な取り組み時間の確保が難しい状況である。来年度に向けて，芦安中の子どもたちに必要な力は何かを考え，行事や諸活動の見直しを2学期より検討していきたい。